

## 今週の為替相場見通し(2018年4月9日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ	
		注	レンジ	終値		
米ドル	(円)		105.66 ~ 107.49	106.94	105.50 ~ 108.50	
ユーロ	(ドル)		1.2215 ~ 1.2345	1.2280	1.2100 ~ 1.2400	
(1ユーロ=)	(円)		129.98 ~ 131.62	131.33	130.00 ~ 133.00	
英ポンド	(ドル)		1.3965 ~ 1.4107	1.4092	1.3950 ~ 1.4200	
(1英ポンド=)	(円)	*	148.39 ~ 151.23	150.65	149.00 ~ 152.00	
豪ドル	(ドル)		0.7650 ~ 0.7726	0.7677	0.7600 ~ 0.7800	
(1豪ドル=)	(円)	*	80.83 ~ 82.65	82.16	80.50 ~ 83.50	

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

## 1. 米ドル

為替営業第二チーム 岡本 明生

(1)今週の予想レンジ: 105.50 ~ 108.50 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

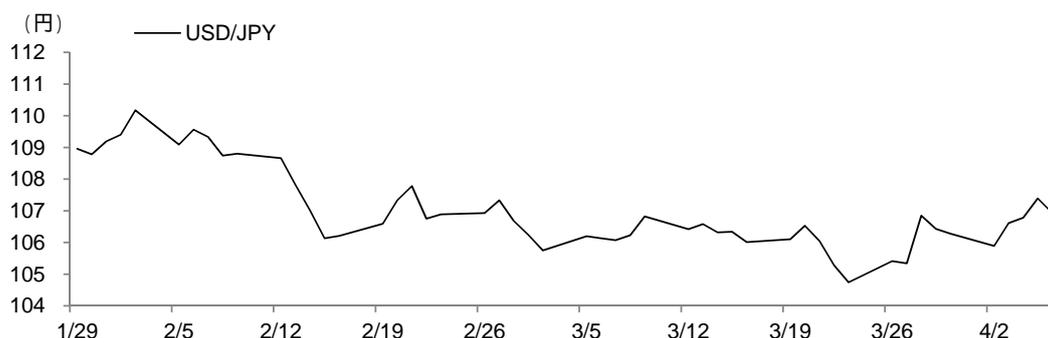
先週のドル/円相場は堅調に推移した。週初2日に106円台前半でオープンしたドル/円はイースターマンデーのため欧州休場となる中、米中貿易摩擦に対する懸念やIT株を中心に米国株が大きく下げたことによるリスク回避の動きを受け一時週安値となる105.66円をつけた。3日はトランプ米大統領が批判している米オンライン小売大手に関し「ホワイトハウスでは特段行動することを考えてない」と伝わり米株市場は大幅に反発すると、クロス円の買いが強まり106円台半ばまで上昇。その後も米株が上げ幅を拡大する展開に106円台後半まで上値を伸ばした。4日は中国財政省が農作物を含む米製品106品目に25%の追加関税を課すと発表したことを受け、米中貿易摩擦激化への警戒感が強まり105円台後半まで急落。しかし、中国が実施時期は「改めて公表する」と即時発動を見送ったことや、北米自由貿易協定(NAFTA)交渉が最終段階にあるとの報道などを材料に米株式市場が前日比プラス圏に切り返したため、106円台後半まで買い戻された。5日は、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長らトランプ政権の幹部が中国と交渉による合意を目指す姿勢を示すと、リスク回避の動きが後退し一時週高値となる107.49円をつけた。6日のドル/円は、トランプ大統領が中国へ追加関税検討を指示とのヘッドラインを受け一時107円ちょうど近辺まで下落するも、徐々に値を戻して迎えた米3月雇用統計は、非農業部門雇用者数変化は前月比+103千人と弱めの結果も、平均時給など他の項目は概ね予想通りで特段材料視されず。しかし、その後ムニューシン米財務長官が中国との貿易戦争の可能性はあると発言したため円買いが進み、106.94円で越週した。

今週は、引続き戻りを試す展開を予想する。先週末のトランプ大統領の中国への追加関税検討指示に対して、中国は激しく抗戦すると発表し、再び緊張感を感じさせる状況に変わりつつある。また、先週一部の米指標にて輸入関税の影響が見られたように、今週発表の指標にも影響がないか警戒が必要だろう。一方で、世界的に株式市場が上昇に転じリスクオフの巻き戻しが見られる中、ドル/円もショートを閉じる動きだけでなく新しくロングを構築する動きが期待される。米企業決算も徐々に本格化する中、株式市場の動きを睨みつつドル/円は上値を試す展開を予想する。但し、15日(日)期限の米財務省の為替報告書への警戒感から、週末にかけて動きは鈍くなるか。

## (3)先週末までの相場の推移

先週(4/2~4/6)の値動き:

安値 105.66 円 高値 107.49 円 終値 106.94 円



## 2. ユーロ

(1)今週の予想レンジ: 1.2100 ~ 1.2400 130.00 ~ 133.00 円

### (2)ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ/ドル相場は徐々に値を下げる展開となった。週初2日に1.23台前半でオープンしたユーロ/ドルは、欧州市場休場により流動性が乏しい中で一時週高値となる1.2345をつけたが、軟調な株式市場を受けたユーロ/円の売りに連れて1.22台後半まで下落した。3日は1.23台前半まで戻す場面もあったが、独3月製造業PMI(確定値)が58.2と速報値(58.4)から下方修正され、2017年12月(63.3)からピークアウトの様相を強めていることを手掛かりにユーロ売りが優勢となり1.22台半ばまで反落した。4日は中国の追加関税発表を受けて米中貿易摩擦に対する懸念からドル売りが先行し1.23前半まで上昇したが、その後は過度な警戒感が後退したことでユーロ/ドルは上げ幅を縮小し、1.22台後半まで値を下げた。5日はクドロー米国家経済会議(NEC)委員長らの発言によりトランプ政権は中国と交渉での解決を模索していると思惑が拡がり、ドル買い地合いとなる中で1.22台前半まで続落した。6日については、米3月雇用統計が市場予想を下回ったことや、米中貿易戦争懸念が高まったこと等を受けてドル売り地合いが優勢となる中、1.22台後半で越週している。

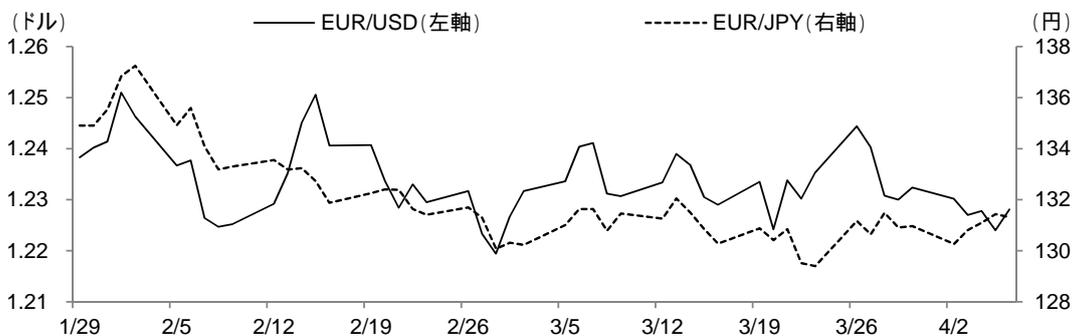
今週のユーロ相場は軟調な推移をメインシナリオとする。欧州については、数か月前のユーロ高の悪影響が出ているのか、欧州各国のPMIなど軟調な指標が散見されており、景気の悪化が懸念されつつある。また、数か月前まで上昇懸念があったインフレについても、原油の伸び悩みも関係しているのか上がってこない。そして、政治情勢については足許落ち着いているように見えるが、週末のハンガリー選挙でポピュリズム政党が政権を維持する可能性が高いなど、反EUの流れは依然として残っている。以上を踏まえると、積極的にユーロを買う環境ではないのではないだろうか。然しながら、投機筋のポジションとしては大幅なユーロ買いとなっており、そのアンワインドのリスクもある。チャート的には節目となる1.22を抜ける場合は、1.20程度までの下落もありえるのではないかと考えている。但し、ECB高官は依然タカ派スタンスを継続しており、良好な経済指標が見られる場合や、中央銀行による引き締め期待が一段と高まる場合においては、ユーロは上昇する可能性にも留意したい。注目材料としては、12日(木)にECB政策理事会の議事要旨の発表が予定されている。

### (3)先週までの相場の推移

先週(4/2~4/6)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2215 高値 1.2345 終値 1.2280

(対円) 安値 129.98 高値 131.62 終値 131.33



(資料)ブルームバーグ

### 3. 英ポンド

(1)今週の予想レンジ: 1.3950 ~ 1.4200 149.00 ~ 152.00 円

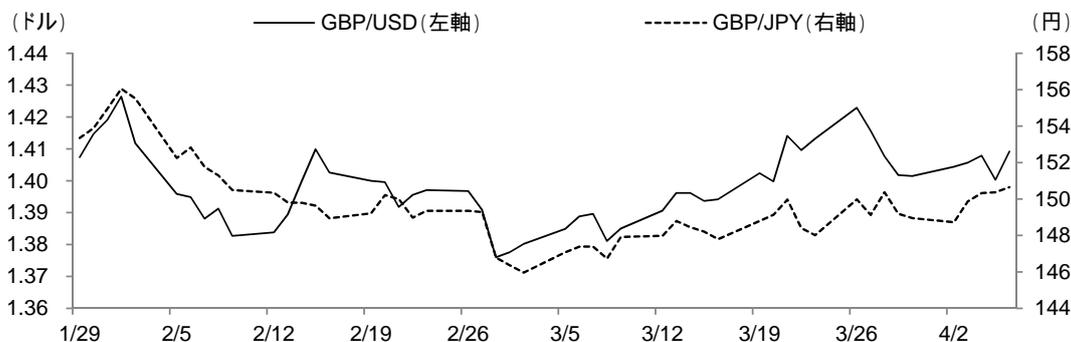
#### (2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、全般に、堅調気味の横這い。週後半に掛け、対ドルでは下落・反発と上下動した。英を含む欧州主要市場が復活祭休日で動意に乏しかった2日、北米時間昼に前後して円が急伸。円高進行は米株急落を受けたリスク回避の動きと考えられた。同日の米株急落は、トランプ米大統領による、一部オンライン小売業批判を嫌気した動き。その後、方向感なく横這いしたポンドだったが、4日には中国が106品目、総額500億ドル相当の米からの輸入品に報復関税を拡大する計画を発表。同発表に呼応するかのように、ライトハイザー米通商代表部代表、ロス米商務長官、クドロー米国家経済会議委員長など米政府要人が相次いで対中「貿易戦争」の火消しに努める発言（「対中関税発効の期限は定めてない」「第三次世界大戦に突入したわけではない」「対中通商措置は『貿易戦争』でなく交渉、提案に過ぎない」など）を繰り返した。一連の動きに、米株、円相場などは右往左往。ポンドも、対円を中心に下押し、反発を見せた。5日には、ジョンソン英外務相の「失言」が話題になったが（後述）、ポンドは対ドルで水準を切り下げた以外は小動きで、同日のポンド安はドル高の結果と読むのが妥当と思われた。ドル高は、前日の反発から高止まりした米株の堅調を好感した動きと考えられた。翌6日、ポンドは堅調に転じ、対ドルでは前日の下落分を帳消しにする上昇を見せたものの、このポンド高も対ドルが中心で、同日発表された米3月雇用統計の低迷を受けたドル安の結果と位置付けられた。

今週の英ポンド相場は、方向感を欠いた膠着を予想。敢えて値幅が出る可能性を見込むなら、英政府の対応の不備を咎めるポンド安を警戒する。今週予定される英経済指標はいずれも小粒で、市場の関心が高いとは言えない。EU離脱交渉や、英中銀金融政策動向は、引き続き重要な材料ではあるものの、目先、大きな展開は期待されていない。足元金融市場全般が気に掛けているのは、「貿易戦争」の行方であり、英情勢に関して言えば、先月、英南部で起きた元ロシア二重スパイ毒殺未遂事件の顛末であろう。中国政府は、先週2日、農産物を中心に総額27億ドル相当の米からの輸入品に報復関税を適用すると発表。その時点で金融市場の反応は緩慢に見えたが、4日になって報復関税の対象が500億ドル規模に膨らむと、上述の通り米政府は事態の沈静化に躍起になった。トランプ大統領ですら「中国とは『貿易戦争』をしているわけではない」などとツイートしたくらいで、中国政府の対応は米政府が想定していたよりも迅速かつ強硬だった可能性がうかがわれる。それでも、トランプ大統領も振り上げた拳をおいそれと下げるわけにもいかないだろうし、当面は実態面への波及に乏しい双方のけん制合戦が続くのではないかと。スパイ毒殺未遂事件を巡る英政府の対応は輪を掛けてお粗末。ジョンソン英外相は、独テレビインタビューでも、外務省のツイートでも、「英研究所の分析で、犯行に使われた毒薬がロシアで製造された事実を確認した」と明言してきたが、5日になって当の研究所の所長が「ロシアで開発された（種類の）毒薬であるのは確かでも、製造者まで割り出すことはできていない」と証言。外務省は当該ツイートの削除を強いられた。メイ首相はここ数日、すっかり音無しの構えで、ジョンソン外相は、「西側諸国の団結が英の判断に対する信任投票」との論戦を張ったが、その根底に事実認識の歪曲がある構図は、同外相らが2016年に展開したEU離脱キャンペーンと相通じるものがある。

#### (3)先週までの相場の推移

先週(4/2~4/6)の値動き: (対ドル) 安値 1.3965 高値 1.4107 終値 1.4092  
(対円) 安値 148.39 高値 151.23 終値 150.65



(資料)ブルームバーグ

## 4. 豪ドル

(1) 今週の予想レンジ: 0.7600 ~ 0.7800 80.50 ~ 83.50 円

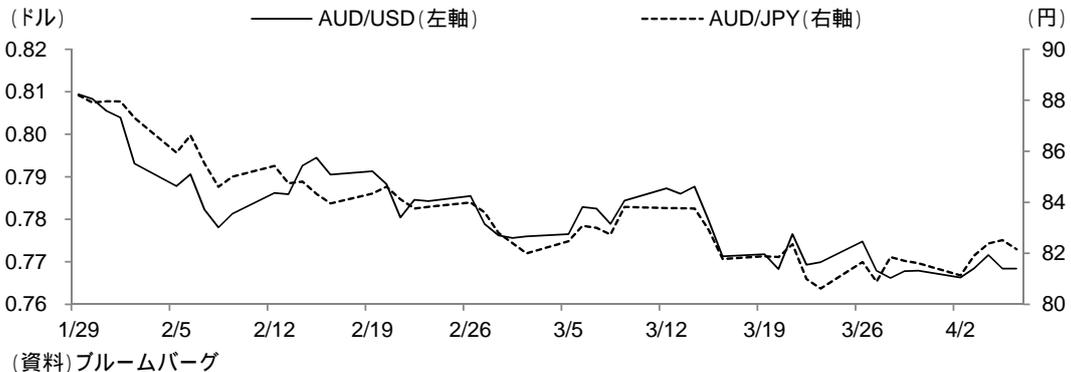
### (2) ポイント(先週の回顧と今週の見通し)

先週の豪ドル相場は、年初来安値(0.7643)近辺での揉み合い。2日、豪ドルは0.76後半でオープン。イースターマンデーで市場参加者が少ない中、米中貿易摩擦に対する懸念やIT株を中心に米国株が大きく下げたことによるリスク回避の動きを受け、リスク通貨とされる豪ドルは週安値0.7650をつけた。3日、豪準備銀行(RBA)理事会では、予想通り政策金利は1.5%に据え置かれ、豪ドルは0.76半ばで横ばい推移。据え置きは18会合連続となった。海外市場に入り、トランプ米大統領が批判している米オンライン小売大手に関し「ホワイトハウスでは特段行動することを考えてない」と伝わり米株式市場が大幅に反発。リスク選好の動きが強まったことから、豪ドルは0.76半ばから0.76後半に上昇。4日、豪2月小売売上高は前月比0.6%増加。小売産業の全分野が堅調に伸びた。市場予想0.3%増加を大幅に上回り、豪ドルは0.77台に浮上。その後、中国財政省が農作物を含む米製品106品目に25%の追加関税を課すと発表するも、実施時期は「改めて公表する」と即時発動を見送ったことや、北米自由貿易協定(NAFTA)交渉が最終段階にあるとの報道などを材料に米株式市場が前日比プラス圏に切り返したことにサポートされ、豪ドルも0.77台で底堅く推移した。5日、豪2月貿易収支は8億2500万豪ドル黒字となった(予想は7億2500万豪ドル黒字)。ほぼ予想通りの結果となり、豪ドルへの影響は限定的だった。しかし、海外市場に入り、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長らトランプ米政権の幹部が中国と交渉による合意を目指す姿勢を示すと米債利回りが上昇しドル買いとなる中、豪ドルは0.76後半に反落した。6日、トランプ米大統領が中国製品に対する1000億ドルの追加関税の検討を指示し、中国側も報復を示唆し、米株式市場が大幅下落した。更に、米連邦準備理事会(FRB)のパウエル議長は講演で「物価上昇率は目標の2%を下回ったままだが、今後数か月で上向くと予測している」と強調した。米経済は家計支出や企業投資がそろって堅調で「さらなる段階的な利上げが最善だ」と指摘。従来の金融引き締め路線を堅持する考えを示したことも、株式市場の下落材料となった。リスク回避の動きが鮮明に出て、豪ドルも0.76後半で上値重く推移して越週した。先週の豪ドル/円は81円半ばから82円近辺に小幅上昇。2日、豪ドル/円は81円半ばでオープン。米中貿易摩擦懸念の高まりを受けたリスクオフの動きから、ドル/円、豪ドル共に下落し、豪ドル/円は週安値となる80.83円をつけた。しかし、翌日、米株市場の反発を受けたリスク選好の動きから、ドル/円、豪ドル共に上昇し、豪ドル/円は81円半ばに反発。4日、ドル/円が上下する動きに、豪ドル/円も81円台で揉み合い推移した。5日、米債利回りを背景としたドル買いから、ドル/円が上昇。豪ドル/円も82円前半に連れ高となった。6日、米貿易摩擦懸念の高まりを受けたリスクオフの動きから、クロス円下落。豪ドル/円も82円近辺に値を下げて越週した。

今週の豪ドルは横ばいを予想する。ここ最近、米中貿易摩擦リスクを巡って一喜一憂する展開となっているが、引き続き、米中政府高官の発言に注目が集まる。貿易摩擦懸念が高まれば、リスク回避の動きが入りやすく、豪ドルも下押し圧力がかかりやすい。ただし、貿易戦争が過熱すれば、米国は貿易赤字を縮小すべく、ドル安圧力をかけてくると思われる。ドルも下落しやすく、豪ドルの下押し圧力は弱まるだろう。以上のことから、今週の豪ドルは先週同様、年初来安値圏での揉み合いを予想する。テクニカル的には、2016年、2017年安値を繋いだラインをサポートラインと考えている。このサポートラインが丁度0.76に位置する。一方、200日長期移動平均線は0.78近辺に位置しており、このラインが上値として意識されよう。

### (3) 先週までの相場の推移

先週(4/2~4/6)の値動き: (対ドル) 安値 0.7650 高値 0.7726 終値 0.7677  
(対円) 安値 80.83 高値 82.65 終値 82.16



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。